

One Purpose

同志社大学通信
FOR BETTER COMMUNICATION

132

2002
October

DOSHISHA UNIVERSITY

特集

FIFAワールドカップが
私たちに残したもの

同志社大訪問

愛知県犬山市に石田市長を訪ねて



SPECIAL TOPICS

FIFAワールドカップが 私たちに残したもの

最終ラインから見た世界 / 日韓ふれあい共同応援団に参加して / ボランティアとして見た
FIFAワールドカップ / 大会会館のスクリーン観戦を体験して / 大舞台で世界のプレスと関わる

2

2001年度大学決算について 財務部 経理課 9

INTERVIEW ~同志社人訪問~



これからの地方行政のあり方を聞く
**愛知県犬山市に
石田市長を訪ねて**

11

OP COMMENTARY

石倉 忠夫 経済学部助教授 何しに来たの? 14

ゼミ・ゼミ おじゃまします 文学部 英文学科 赤松 信彦ゼミ

“ Focus on Form ” ~第2言語習得の研究 15

新島 襄の旅した風景 7

群馬県 前橋市 17

LECTURE 経済学部公開授業

「京都の町と一澤帆布」 一澤 信三郎さん 20

CAMPUS NEWS

社会と同志社大学との架け橋“同志社大学リエゾンオフィス” / フィギュアスケート部創部
70周年記念祝賀会開催 / 本学経済学部と池坊短期大学が単位互換協定を締結 /
第4回世界学生アーチェリー選手権大会に出場 / 京田辺校地で、第25回外国文化週間コ
ンサート開催 / 2002 FISITA Youth Congress(自動車技術の若手研究者を対象とする国
際会議)で最優秀論文賞(第2位)を受賞 21

BOOK・VIDEO

山本 睦 言語文化教育研究センター助教授 『ソフィーの世界上・下』
向井 公敏 商学部助教授 『東京物語』『東京画』 23

MY JOB, MY LIFE ~シリーズ私と「仕事」~

・有馬 流太郎さん(1994年商学部卒業)
・康本 園子さん(1997年商学部卒業) 25

COVER STORY 〔表紙の情景〕



「地下からの階段をのぼりながらふと顔を上げた時、この景色が目飛び込んできました。空の青さと木々の緑とレンガの赤のコントラストがとてもきれいで印象的でした」。こう語ってくれたのは法学部3年次生の奥西健吾さん。絵を描いている時が一番楽しいと言い、カラ・コディネ・タ - の資格も取得している程。それだけに、3つの色がつくるきれいな景色に胸を突かれたのだろう。表紙の写真は、扶桑館の地階にある生協書籍部を出て、地上へあがる階段から見上げた中庭。左手にはハリス理化学館、右手には礼拝堂があり、豊かな緑に囲まれた場所だ。木製のベンチもいくつかあり、木洩れ日の下でおしゃべりをしたり、お弁当を食べたりと憩いの場になっている。奥西さん自身もここで友達と話したり、本を読んだり、よく利用するらしい。

キャンパスのメインストリートから一本奥に入っていることもあり、静かな場所だ。書籍部で買ったばかりの本を、この場所でゆっくり読むのも贅沢な時間の過ごし方といえるだろう。

「撮影スポット」を募集中!

「One Purpose」の表紙を飾る写真の撮影場所を募集しています。普段見慣れたキャンパスも、「そんな所から見ると違った表情を見せてくれる」。こんなスポットがあったら、ぜひご推薦ください。

【連絡先】

企画部広報課「One Purpose」係まで
TEL : 075-251-3120

FIFAワールドカップが私たちに残したもの

5月31日に開幕した2002FIFAワールドカップは、1カ月の日程を終えその幕を閉じた。

アジア初で、日韓共催という今までになかった大会に世界中の人々が熱狂した。ホスト国であったため、同志社大学の関係者にも大会に関った人も多く、5人の方にご登場いただき、それぞれの視点で見た2002FIFAワールドカップを特集してみた。



みやもとつねやす
宮本恒靖さん

【2001年経済学部卒業】

1977年大阪府生まれ。小学5年生からサッカーを始める。中学3年生でU-15日本代表に選抜されるなど、数多くの世界大会に出場。1992年、ガンバ大阪コースに入団。1995年、同志社大学経済学部入学。同年Jリーグのガンバ大阪に入団。「天性のキャプテンシーを持ち合わせたディフェンダー。的確な指示で巧みにラインをコントロールし、つねに冷静な判断力を持つ」と高く評価されている。今回のW杯では、日本代表のキャプテンを務めた。鼻骨骨折のため、顔面を保護する目的で着けた黒いフェイスガード姿が国内外で話題を呼んだ。

Miyamoto

別演
特公

最終ラインから見た世界

「鋭い判断力と抜群のキャプテンシー」で、サッカー日本代表を2002年FIFA国際サッカー連盟ワールドカップ決勝トーナメントに導いた宮本恒靖選手を迎えた講演会「アッセンブリーアワード」が7月9日、京田辺キャンパス知真館2号館101番教室で行われた。同201番教室のスクリーンによる放映と合わせて、約3,000人の学生が集まり、熱気あふれる中、宮本選手は「最終ラインから見た世界」と題して日本代表やW杯での体験を語った。

（宮本選手が会場に姿を見せると、大きな宮本コールと歓声がわき起こった。宮本選手が、今日は、暑い中ありがとうございます」とその声援に応じて、古川教授との対談形式での講演会がスタート）

古川 FIFAワールドカップW杯のマッチに立った感想から聞かせてください。

宮本 初戦のベルギー戦の後半途中から出場したのですが、普段やっているリーグの試合とは雰囲気がいまいち違つなとまず感じました。ベルギー選手の気迫に圧倒され、慣れたままで少し時間がかりました。2戦目からはいつもの精神状態で臨むことができました。

古川 見ていてもロシア戦、チェルシー戦のゲ

ームでは、非常に落ち着いていて、状況判断が冴えていましたね。

宮本 観客席には、何万という大観衆がいて、すごい熱気だったのですが、ピッチの上の自分はずごく冷静でした。対戦相手の動きがまるでフットボールでも見るようによく見えましたが、余程調子が良かったんでしょうね。古川 それはすごい。少し専門的になりますが、ヘルギー戦では、宮本選手を中心にディフェンダー3人で構成する最終ラインを積極的に前に押し上げることで相手のオフサイドを誘うというゆるい「フットボール」がうまく機能していなかったように思います。

それがロシア戦、チュニジア戦では、柔軟にフォーメーションを変え、見違えるような動きをしていました。

宮本 ヘルギー戦の翌日にミーティングがあったのですが、監督は、戦術そのものには触れませんでした。その後、宿舍の風呂に入っている時や食堂で食事をとりながら、選手だけで話し合いの時間を持ちました。そこでの共通認識

は、現状のままでは失点を繰り返すだろうという点。ではどうすればいいか。その時にソトになったのが、イングランド対アルゼンチンの試合でした。イングランドがアルゼンチンの猛攻をゴール前でしのいでいる光景がテレビから流れてきました。これを見て、状況に応じてラインを下げ、臨機応変にディフェンスをしていくという結論に達しました。

結果的に監督の指示に従わないことになりましたが、ディフェンスは想像したとおりよく機能しました。

古川 W杯4試合を経験して、世界のトップとも互角に渡り合えるという感触はつかめましたか。

宮本 監督はよく、日本代表チームは、日本で最高の選手の集まりではない。しかし、チームとしての戦術面、体力面、技術面、精神面をトータルに考慮した結果、この23人がベストメンバーだという結論に達したと言っていました。組織力を生かした戦術は、基本的には正しいと思っています。選手

個人の技術は、いいレベルにありますが、対戦選手の厳しいプレッシャーには、まだまだ弱い面があり、そこはもっと伸ばす必要がありますね。

古川 今回のW杯には、32カ国が出場していたわけですが、サッカーを通して国民性や文化の違いを肌で感じたのではないのでしょうか。

宮本 ロシアのカルピンという選手と試合後にユニホーム交換をしようとしたのですが、あっさりと断られました。一方チュニジアの選手はとてつもなくフレンドリーでした。

私は、15歳の時から海外での国際試合や世界大会も経験しているし、リーグで



学生からの質問に一問一答

- Q 海外でプレーしたいと思っていますか？
- A はい。日本と異なる環境に自分を置くことで、プレーイとして、また人間として成長できるのではないかと思っています。
- Q サッカーを始めたきっかけは？
- A アルゼンチン代表のマラドーナ選手に憧れて、小学5年生の時から始めました。
- Q 今回のW杯で、最も印象に残ったゲームは？
- A イタリヤ対メキシコ戦。途中から出場したイタリヤ代表のデルピエロ選手が、後半40分に同点ゴールを決めた姿が印象に残っています。
- Q スポーツとは何？
- A 人間形成にはすごく意味のあるもの。体を健康にするのももちろん、気持ちを豊かにし、心も元気になるものです。
- Q プロフェッショナルとは？
- A もらっているお金に見合ったプレーを見せることが、まず第一。そのためにはある程度の自己犠牲が必要です。
- Q 大学サッカーとは？
- A プロはめざさないと、より高いレベルでサッカーをしたたいと考えている人や、勉強しながらプロをめざす人には意味があると思います。マネジメント、審判などの勉強もできる。さらに他の仕事に就いてもよいのではないのでしょうか？私自身ゼネラルマネージャーの仕事に興味を持っています。
- Q 次のW杯で、対戦してみたい国は？
- A ブラジル。
- Q 試合後に対戦選手と交換したユニホームはどうしていますか？
- A 押し入れの中笑。
- Q トルシエ監督との会話は、英語？それともフランス語？
- A ミーティングでのフランス語は、だいたい理解できますが、日常会話は難しく、ほとんどは英語での会話になります。
- Q 自身の今後の目標と同志社大学へのメッセージをお願いします。
- A 目下の目標は、リーグでの優勝。一日一日を大事に過ごして、次のW杯につなげたいと思っています。学生の皆さんには、ぜひグラウンドに足を運んでほしい。そして、スポーツをして体も心も健康になってください。



司 会
古川 勝巳
【神学部教授】

同志社大学体育会サッカー部部長および総監督・全日本大学サッカー連盟理事・関西サッカー協会理事・京都スガーツ文化研究会幹事長を務める。

古川 今回のW杯でのジャッジメントは、いろいろ問題になりましたね。
宮本 戸田という選手は熱い男で、一つひとつのフェールに興奮するので、しょうちゆう審判との間に割って入らないといけなかつた笑。
古川 宮本選手は、キャプテンとしてチームをまとめてきたわけですが、ベスト16という結果についてはどう感じていますか。
宮本 チュニジア戦が終わって、決勝トーナメントへの出場が決まった時は、正直ほっとしました。多くの方が応援してくれていたんで、



もいろんな国の選手と接する機会があるので、比較的冷静にプレーすることができました。そこで感じることは、身体能力の違いはもちろんだ、審判の判断基準が国によ

結果を出せてよかった。ただ、トルコ戦が終わった瞬間は、こんな終わり方でいいのかと物足りなさを感じましたね。何か不完全燃焼で終わったような。

古川 予選を突破しなければというプレッシャーは相当なものでしたか？
宮本 大会前には、予選を突破しなかつたら、日本のサッカーの火が消えてしまうだろうという危機感がありましたね。でも、モチに立った途端、試合に集中してそんなことはきれいさうばり忘れていましたけれど(笑)。周囲の熱狂的な盛り上がりにも乗せられて、普段以上の力が出せたと思います。日本代表のキャンプ地の最寄り駅は、「こたま」しか止まらないJR掛川駅だったので、凱旋する

といつも各停車駅で多くの方に出迎えていただきました。日本中が熱狂しているムードメントの中にいるという幸せをチーム全員が感じていました。

古川 同志社の京田辺、今出川の両キャンパスでも多くの学生がスクリーン観戦していました。今回のW杯は、スポーツの素晴らしさだけでなく、生活をより豊かなものにすることを国民全体に伝えてくれたような気がします。

宮本 私自身もサッカー選手という立場から、スポーツ文化をより多くの人に広めていきたいと強く感じています。
「花束贈呈後、宮本選手は、歓声と拍手に送られながら会場を後にした。」

対 談

日韓ふれあい共同応援団に参加して

折田 今回の応援ツアーは、1泊2日の慌ただしいものだったけど、いい経験ができた！韓国への関心がさらに深まった。小島君はどう？
小島 僕は、サッカーに詳しくないけど、折田君が熱中するわけが分かったような気がする。飛行機で釜山に着いたのがお昼で、そのままタクシーでKJクラブ/日韓ふれあい共同応援団の人たちが集まるハンファ・ホテルに行き、みんなでスタジアムに駆け込んだ。シートはゴール裏で申し分なく、僕らはKJクラブのシャツ、韓国の人たちはBe the RedsのTシャツを着て応援した。ノリは最高で、たまにみんなが歌えるアリアンを挟んだりして、選手も観衆もうまくノせていた。僕自身も思わず熱くなりました。

折田 真明さん
【法学部1年次生】



高校時代に韓国サッカーの魅力を知る。Jリーグに参加する韓国選手を応援するうちに、友人の紹介で日韓ふれあい共同応援団の存在を知り、小島さんを誘って参加。韓国への留学をめざしてハンブルを学ぶ。

折田 KJクラブは、若い人たちがばかりかと思っていたら、さまざまな世代が参加していたので意外だった。言葉がわかれば、いろいろな話のできたんだらうけど、試合の方は、200の

の「韓ナリー」とがNHKのハンゲル講座が最近の韓国事情を紹介しているくらいだ……。

小島 韓国に行つてから早いものでもう2カ月がたちけど、その後ハンゲルの勉強は進んでる？

折田 なかなかはかどらないけど、Kボップはよく聞くし、友だちに紹介しても評判がいい。アニメーションではかなわないけど、音楽や映画では日本に負けないと、ある韓国の人がいつたけど、なるほどと感じる。小島君は？

小島 ボクシングの方で忙しくてはかどっていない。でも、時間を見つけてKボップの詩を訳したりしている。

折田 詩もそつだと思っただけ、僕の字んでいる法律は、歴史的な経緯もあり、韓国と日本の法律は似ているんだ。隣国だけど、われわれはそつじつととも知らない。

小島 韓国は長らく日本の大衆文化の流入を禁止していた。でも、若者レベルでいえば、韓国の若者の方が日本のことをよく知っている。逆に日本にはそんな規制はないけど、韓国の情報はあまり入ってこない。そつじつ意味でも、今回のワールドカップはサッカーを通して韓国を知るいいきっかけになったと思う。折田君



小島 大輝さん
【神学部1年次生】

ボクシング部に所属。ホームステイをしていた韓国からの留学生と知りあったことから、韓国にひそかに関心を寄せていたが「日韓ふれあい共同応援団」であらためてその魅力にめざめた。

も僕も、サッカーから入って、Kボップや韓国文化などに関心が向いていったように。

折田 両国には過去に不幸な経緯があった。でもそつじつとまっていたのでは新しい関係は開けない。21世紀の主役はわれわれなんだからわれわれの手で、新しい歴史を切り拓きたい。僕は韓国への留学を視野に入れて、ハンゲルを勉強しようと思っているし、韓国の情報が必要。

インタビュー-1

ボランティアとして見た
FIFAワールドカップ

前回のフランス大会を観戦し、4年後の日韓共催大会には、絶対にボランティアとして参加しようと思っていました。具体的に行動を起こしたのは募集が始まった昨年の夏。結果は、2カ月後、語学留学のためメキシコ滞在中に実家からの連絡で知りました。

FIFAワールドカップ日本組織委員会(AWOC)が募集したボランティアは会場ごとに分かれます。私の任務は、スタジアム内での観客誘導と客席案内。語学力として英語とスペイン語を登録していたので、語学担当という役割が与えられました。

少ないなら、僕たちの手で紹介すればいいと考えている。

最後に、日韓で応援した感想は、日本人である僕たちを、過去のいきさつから受け入れてもらえる心配はなかったけれど、大変親切にしてもらい、これからの日韓関係のますますの発展を期待できるので、大変嬉しく感じた。



観客は、空席になっていくのに、なぜ座ってはいけ



麻畑 麗子 さん
【文学部社会学科
社会学専攻
3年次生】

愛知県岡崎市出身。兄の影響でサッカーが大好きになり、地元の名古屋グランパスを応援する。今回のFIFAワールドカップでは、ボランティアリーダーとして長居スタジアムの北サイドスタンドを担当。E.S.S.に所属。ゼミではメディア・コミュニケーションについて学ぶ。

ないのがとか何かと注文が多い。気持ちはよく分かるのですが、安易にOKすると混乱が起こるので拒否しました。しかし、彼らはめげずに頼み込んでくれます。勝手に固まって応援している人たちが警備の人に移動させてくると頼まれたのですが、人数が多すぎて移動してもらおうのが不可能と判断して、通路に立つのだけはやめてもらいました。結局、みんなゴール裏に陣取ってしまいました。また、あ

る外国人の観客は、連れてきていた子どもがトイで迷子になり、バックに陥っていました。日本語が少し話せる方でしたが、完全に気が動転していました。それを警備担当者がフーリガンのように扱ってしまつたようで、後味の悪い思いをしました。大会前のフーリガン騒動もそうですが、日本は少し異文化に過敏になり過ぎていました。多様な文化の方々が集まる国際イベントなのだから、サッカーを通して

インタビュー-2

大学会館のスクリーン観戦を体験して

文化や行動様式の違いを楽しむ余裕がなくてよかったのではないだろうか。試合当日は、朝から12時間近くボランテニアに従事したから、心身ともに疲れましても4年次の願いがかなったことだし、大学卒業後はサッカーに関わる仕事につきたいと考えている私にとってはかけがえのない体験ができた大会でした。

「みんながいつしよになつて、こんなに燃え上げれるとつて、あつたかなこれが決勝トーナメント1回戦、日本対トルコ戦を今出川キャンパス大学会館ホールで観戦した私の率直な感想です。応援の甲斐なく、この一戦が日本代表の最終戦になつてしまいました。でも、選手たちは力を出し切つたし、私たちも夢中で応援したので、落胆のなかにさすががしさを感ずることができました。」

「リーグは発足当時の熱気も失せ、観客が減少きみ。友人たちにサッカーの話題を持ちかけてもリアクションは、何、それって感じが多く、サッカーファンの私としては寂しい思いをしていたので、今回のワールドカップを通して友人たちがその魅力に目覚めてくれたと思うとちよびり鼻が高い。世界各地の予選を勝ち抜いてきた一流チームが、国民の期待を一身に受けて戦つたわけですから試合が面白いのはあたりまえ。サッカーの楽しさは、み



中山幸子さん

【文学部社会学科
社会学専攻
3年次生】

奈良県出身。スポーツ観戦が好き。中でもサッカーでは同志社大学の先輩宮本選手と同郷の榎崎選手を応援する。「大学スポーツもみんなが応援すれば、もっと盛り上がるのに……」と語る。

んなが集まって応援することです。もちろん試合会場なら最高ですが、テレビ観戦でもみんなが集まれば、大きな熱気をはらんでサッカーを観る醍醐味は倍増するのです。

大学会館でのスクリーン観戦の企画は、その意味でもとても良かった。最初、掲示板で知ったときはさて何人集まるかと半信半疑でしたが、みんな日本代表のレプリカユニフォームを



着込んで集まってきました。私も後ろの席の男子学生にもらった手作りのメイスンクワド宮本恒靖選手に声援を送り続けました。

ただ今回の大会を通して個人的に感じたことがあります。それはこの異常な盛り上がりを演出したメイスンクワドの存在です。世界の一流プレイヤーが競うワールドカップは確かに面白い。しかし、それまで見向きもしなかつた人を見る気にさせたのはやはりテレビ、新聞をはじめとするメイスンクワドです。私はメイスンクワド志望です。から、あらためてその影響力の大きさに驚きました。と同時に、どのチャンネルを回してもサッカーばかりという事態は、少し異常。サッカー観戦の魅力を多くの人々に知ってもらえたのはうれしいのですが、一過性の熱病で終わつて欲しくありません。そう考えると、各国代表がキャンパス地に大都市ではなく、淡路島の津名町や大分県中津江村などを選んできたことが結果的によかつたのではないのでしょうか。私は、こうした町や村でこそ日本サッカーの歴史に残るページとして長く語り継がれると思うし、サッカーを通じた国際交流ができたのではないかと考えます。

インタビュー
3

大舞台で世界のプレスと関わる

永松 太さん
【1991年法学部卒業】

在学中はサッカー部に所属。卒業後は、2年間のドイツ留学を経て、発足間もない京都パープルサンガに広報担当として就職。経験も前任者もないなか、サンガの広報を担ってきた。日韓共催FIFAワールドカップでは、大分スポーツ公園総合競技場(大分会場)のスタジアムメディアセンターの責任者という大役を果たす。

私は現在、京都パープルサンガのクラブ職員

として広報を担当しています。同志社大学ではサッカー部に所属、主務を務めました。卒業後も、サッカーに関わる仕事を求め、ドイツに2年間留学。サッカーを中心にスポーツクラブのマネジメントについて学び、帰国後はまだリーグの準会員だった京都パープルサンガの広報担当の仕事につくことができました。

今回のFIFAワールドカップは、私のように小学生からサッカーを続けてきた人間にとっては、国際的なイベントという以上の意味があります。前回のフランス大会は、自費で観戦しましたが、日韓共催の今回は、ユニメディアオフィサーという、各国からやってきたプレス関係者への対応の責任者の立場で大会に関わることができました。各会場にはFIFAから任命されたメディアオフィサーもいますが、リーグから派遣されたわれわれは彼らをサポートし、世界中から集まるプレス関係者に取材や報道がしやすい環境を提供するわけです。

私が勤務したのは大分会場でした。リーグのクラブで広報には馴れているというところで選ばれたのですが、スケールはまったく違います。サンガの本ムンラント(西京極陸上競技場の記者席はせいせい80席)ところが、こちらには400人以上の取材陣が集まり、席割りを決めるだけでも大変なのです。メディアオフィサーは心得たもので当該試合国のプレス、有力メディアなどの順にシートアレンジしていきますが、われわれも国内の報道陣のアレンジを任せました。それでも、席がない、だの、もっといい席が欲しい、だのと注文の多いこと。

結局、大会期間中3週間、大分に滞在、日々仕事に忙殺されて、心身ともにギリギリの状態が続きました。何をしないといけないか、そのつとメモしないと目先の忙しさに追われて忘れてしまいます。おまけに、インカムを通して、各セクションの担当者からひっきりなしに問い合わせが入ります。私を「監督」と呼んで指示を仰いでくれるのはうれしいのですが、難しい判断を強いられることがほとんどでした。しかし、われわれの仕事の目的は、各国の報道関係者に快適に取材をしてもらうこと。迷ったときはこの原点に立ち返って判断すればいいのです。クラブの報道対応でも忘れがちなこの原点を思い出してからは、少し肩の力が抜けたようです。

今回の大会の運営に関しては、ホストナリテイの面で日本より韓国に軍配が上がったようです。関係者の視点からいっても、どうも日本はルールにははられ過ぎたようです。その点メ

ディアオフィサーの判断力は見事でした。報道陣は通常決められた期日までにメディアセンターに取材申請しないといけないのですが、ある試合で当該国セネガルからの申請がありました。それに気づいたメディアオフィサーは、セネガル用にシートを確保しておきました。当日、当然のように、申請をしていないセネガルの報道陣が押し寄せました。ルール通りに運用していたら、きつとトラブルが発生したでしょうが、メディアオフィサーの配慮で事無きを得ました。

今回の大会は個人的にとってもいい経験ができました。京都パープルサンガからは韓国代表で活躍した朴智星というスター候補も生まれました。彼はまだ21歳という若さです。以前、サンガにはラモス瑠偉さんや三浦和良選手(現ヴィッセル神戸)というスターが在籍しましたが、彼らはすでにスターとして完成していました。しかし、朴選手はこれからスターへの階段を昇るうという選手。いいプレイヤーを続けることはもちろんですが、ワールドカップで一流選手が見せた報道陣への接し方やマナーをこれから学んでいく選手です。私自身も、メディアにきちと対応し、サンガはさすがだと思っしてほしい。一流の広報のなかでこそ世界に通用するスターが生まれるんだということを実感したいと思います。



2001年度大学決算は、5月9日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月25日開催の理事会において承認されました。

2001年度においては、教育研究条件の整備充実事業として学部・大学院の教育研究助成費の増額、情報基礎講座の開設、インターシッププログラムや障がい学生支援制度の実施、学生教育研究災害保険の拡充など教育支援体制の充実を図ったほか、教育研究環境の整備充実事業としてマルチメディア教室や図書館などの学生関連施設設備の重点的な整備を行いました。また、情報基盤の整備事業として情報処理教育用ソフトウェアの導入、教育研究支援システムおよびネットワークシステムの機能強化、新島遺品庫収蔵資料公開システムの構築、国際交流の充実としてウィニベグ大学 Semester 留学制度の新設、就職活動の支援として大阪就職サポートオフィスの設置、さらに、奨学事業として家計急変者増加に対する給付奨学金および貸与奨学金の緊急増額措置などの事業を実施しました。

建設事業としては、保健体育シャワー棟の建設、施設設備のライフサイクルを考慮した更新事業として今出川校地寧静館および京田辺校地福利厚生棟の空調設備等の改修事業、バリアフリー整備事業など特に緊急性の高い施設設備整備事業を優先して行いました。さらに、2002年度完成予定の大学会館新町本館、2003年度完成予定の新大学会館および京田辺校地情報メディア施設の整備事業を開始しました。

なお、2001年度決算では、教育研究水準の維持向上を図るとともに、予算の効率的な執行および経費の節減と人件費比率の引き下げ、寄付金、補助金の新規開拓などにより、財政の改善を図ることができました。

以下、収支計算書にもとづき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は246億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は79%を超え、大きな比重を占めています。

手数料は13億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は7億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金および機器備品・図書等の現物寄付金のほか、ルーム株式会社より情報メディア施設宛の特別寄付金などにより予算に対して5億円の増収となりました。

補助金は28億円で、国庫補助金が主なものですがそのうち経常費補助金では特別補助において情報化推進特別経費、大学改革推進特別経費などの補助項目について補助上限額および申請経費の増額により増収となりました。また、施設設備対象の補助金においては研究装置、マルチメディア装置およびバリアフリー推進事業などの選定により予算額を大幅に上回りました。

資産運用収入は5億円で、基本金引当資産の運用収入および預金等の受取利息・配当金などです。

事業収入は2億円で、企業からの委託研究費などの受託事業収入および補助活動、付属事業収入が主なものです。

雑収入は7億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は2億円で、退職給与引当資産欠損額の諸学校への繰出しが主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は7億円で、新町北別館建替に伴う解体除却および機器備品の償却期間完了に伴う除却額です。

借入金等収入は1億円で、学校債発行による借入額です。

特定支出準備金取崩額は1億円で、パイプオルガン取得ほか使途特定準備金の取崩額です。

収入の部合計は、320億円となり、寄付金、補助金の増額などにより予算に対して15億円の増収となりました。

支出の部

人件費は133億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は43%を占め、前年度に続き低下しています。

教育研究経費は88億円で、大学の経常的な教育研究活動に要した経費です。主に研究費および実験実習費などの予算繰越による執行残、光熱水費の節減および通信費の削減などにより、予算額を2億円下回りました。

管理経費は9億円で、大学の維持管理に要した経費です。主に経費の節減による執行残により予算額を下回りました。

資産処分差額は2億円で、主に新町北別館の除却に伴う減価償却未償却額を処分差額として計上したものです。

繰入金金は12億円で、法人内での資金調達勘定です。法人全体として有利子負債による負担を軽減するため諸学校に資金を調達したもので、次年度より計画的に返済が行われます。

施設関係支出は5億円で、両校地空調設備等の改修事業および体育施設整備、バリアフリー整備などの施設整備事業、さらに、新大学会館、新町新別館、情報メディア施設建設事業のうち本年度の支出額などが主なものです。

設備関係支出は11億円で、教育研究用機器備品・図書など固定資産の取得に係るものです。

基本金組入額繰延額は3億円で、新町北別館の建替に係る基本金の処理として、固定資産減少額を同一資産の取得年度である翌年度の基本金組入額に繰延べるものです。

借入金等返済支出は18億円で、過年度建設事業に係る借入金の返済額です。私学事業団借入金については定時償還分を、市中銀行借入金については償還計画にもとづき返済しています。なお、市中銀行借入金については本年度の償還をもって完済となりました。

第2号基本金組入額は、組入計画にもとづき、教学施設整備資金12億円、研究装置設備等整備資金2億円、情報基盤整備資金1億円の合計15億円を組入れています。

第3号基本金組入額は、組入計画にもとづき、同志社大学奨学金基金に3億円、同志社大学国際交流基金に2億円を組入れたほか、特別寄付金ならびに基金果実の使用残額など合計5億円を組入れています。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算にもとづき必要額を組入れています。

特定支出準備金繰入額は7億円で、使途特定寄付金および研究費等の繰越額を決算において繰入れたものです。

支出の部合計は、311億円となり、特定支出準備金の繰入、除却固定資産に係る処分差額の計上および基本金組入額の繰延などにより予算に対し9億円の増加となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は、寄付金、補助金をはじめとする収入の増加、経費の節減および予備費の残余などによる支出の減少により改善され、単年度においては9億円の収入超過となりました。

しかしながら、累積消費収支差額は、依然として多額の支出超過を計上することになり199億円の消費支出超過額を翌年度以降に繰越すことになりました。

借入金

借入金残高は、前年度末に対し17億円減少し当年度末の借入金残高は41億円となりました。

累積赤字

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

なお、この自己資金の不足額は前年度末の245億円に対して、当年度末は240億円となり、5億円減少しました。

(本文中の金額については1億円未満を四捨五入しています)

収支計算書 2001(平成13)年4月1日から2002(平成14)年3月31日まで(単位:千円)

科 目	収 入 の 部		
	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	24,548,250	24,567,924	19,674
手数料	1,200,100	1,255,055	54,955
寄付金	138,700	662,705	524,005
補助金	2,418,130	2,819,489	401,359
資産運用収入	445,180	498,321	53,141
資産売却差額	0	45,173	45,173
事業収入	108,600	157,171	48,571
雑収入	742,760	738,845	3,915
繰出金	186,140	187,046	906
繰入金	134,460	134,460	0
帰属収入合計	(29,922,320)	(31,066,189)	(1,143,869)
当期固定資産除却額	415,720	737,485	321,765
前年度基本金組入額繰延額	0	0	0
借入金等収入	100,000	91,900	8,100
当期末未払金	0	29,297	29,297
第2号基本金取崩額	0	30,000	30,000
基本金過年度組入額、未組入額合計	(515,720)	(888,682)	(372,962)
特定支出準備金取崩額	64,610	93,799	29,189
収入の部合計	[30,502,650]	[32,048,670]	[1,546,020]

科 目	支 出 の 部		
	予 算	決 算	差 異
人件費	13,383,860	13,306,822	77,038
教育研究経費	8,992,590	8,797,935	194,655
消耗品費他	6,417,110	6,227,721	189,389
減価償却額	2,575,480	2,570,214	5,266
管理経費	953,610	899,329	54,281
消耗品費他	893,940	839,672	54,268
減価償却額	59,670	59,657	13
借入金等利息	180,570	180,569	1
資産処分差額	0	203,622	203,622
徴収不能引当金繰入額	34,620	56,425	21,805
徴収不能額	0	8,597	8,597
繰入金	1,150,000	1,219,724	69,724
予備費	100,000	—	100,000
消費支出合計	(24,795,250)	(24,673,023)	(122,227)
施設関係支出	335,480	458,401	122,921
設備関係支出	1,241,300	1,145,407	95,893
当期固定資産受贈額	0	33,930	33,930
翌年度基本金組入額繰延額	0	278,969	278,969
借入金等返済支出	1,770,400	1,770,397	3
前期末未払金	44,240	44,239	1
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0
第3号基本金組入額	452,000	459,780	7,780
第4号基本金組入額	60,200	60,200	0
基本金要組入基、当年度組入額合計	(5,403,620)	(5,751,323)	(347,703)
特定支出準備金繰入額	16,700	733,960	717,260
支出の部合計	[30,215,570]	[31,158,306]	[942,736]

用語解説

収支計算書

学校法人会計基準にもとづく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

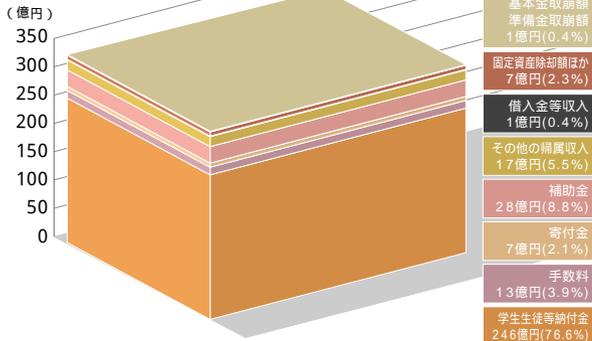
科 目	収 支 差 額 の 部		
	予 算	決 算	差 異
当年度消費収支差額	(287,080)	(890,364)	—
消費支出準備金繰入額	1,010,630	2,025,454	—
消費支出準備金取崩額	0	0	—
繰入取崩後当年度消費収支差額	[723,550]	[1,135,090]	—
前年度繰越消費収支差額	[18,729,480]	[18,729,478]	—
翌年度繰越消費収支差額	[19,453,030]	[19,864,568]	—

科 目	借 入 金		
	予 算	決 算	差 異
前年度未借入金残高	[5,801,840]	[5,801,835]	—
当年度借入額	100,000	91,900	—
当年度返済額	1,770,400	1,770,397	—
当年度未借入金残高	[4,131,440]	[4,123,338]	—

収支構成図

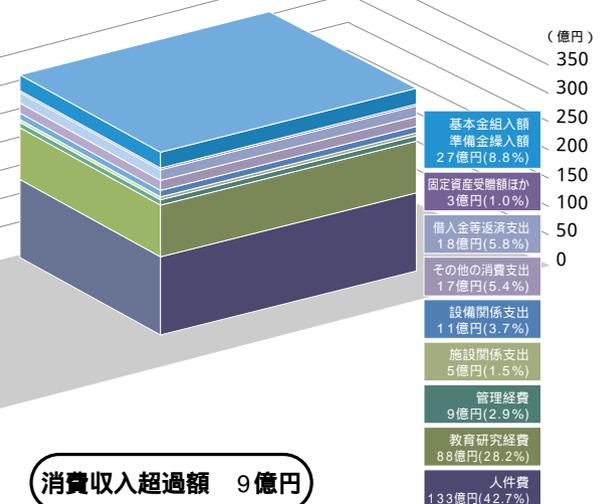
収入合計 320億円

(うち帰属収入 310億円)



支出合計 311億円

(うち消費支出 246億円)



消費収入超過額 9億円

愛知県犬山市に石田市長を訪ねて

杉岡 会費制の成人式やボランティア休暇、民間人の校長登用など、市長が打ち出される改革案は全国的にも注目されていますね。

石田 これは私の持論なのですが、仕事というものはすべからずその人のパーソナリティを出さないといけないと思っています。たとえば絵ですが、ゴッホは傑出した画家ですが決して上手な画家ではありません。彼の作品が感動を呼ぶのは、作品から絵に打ち込む彼の情熱、生き様がほとぼり出てるからです。政治家も同様で、技術でなくパーソナリティ、最終的にはどっぴつ哲学を持っているかが問われるのだと考えています。

杉岡 市長は、行政はクラシックで、政治はジャズだという表現をされていますが。

石田 政治と行政は表裏一体となつて公的な仕事をやっていきます。しかし、よく観察してみるとこのふたつは実は異なるものなんです。行政というものには譜面があつて、それをしっかりと見て演奏しないとけません。一方、政治というのはアドリフで、ときには譜面からははみ出ることも必要です。はずれたところに個性や品格、面白さが出るのです。それを私流に表現する。行政はクラシックで政治はジャズだとなる。では市長はどうかという、行政の長であると同時に、選挙で選ばれるという意味では政治家です。だからクラシックとジャズを上手に使分けけないといけない。ところが市長や知事になる人は官

僚出身者が圧倒的に多く、クラシックだけでやる。つまり行政が面白くない。ジャズ的な要素がないからですよ。山下洋輔さんというジャズピアニストがいらしゃいますね。

私は山下さんの音楽が大好きで、仕事の参考にさせてもらっています。

杉岡 山下さんの音楽という点即興ですね。しかし、即興は素晴らしい反面、たまに間違つこともありますよね。

石田 政治も間違つことはあります。しかし、間違つことは悪いことではない。ゴルフと同じで、ミッドウェイのあとそれをどつりかパリするかが問題なのです。間違いを修正し成功に結びつけていくことが大切なのです。

杉岡 さて、少し話が変わりますが、市長は大学の教員を小学校の校長に登用しようと思われただけでなく、塾のカリキュラムを取り入れようとして、県の教育委員会と衝突されていますね。

石田 教育は、今もつともエネルギーを注いでいるテーマです。それは教育が将来に向けた最大の投資だからです。新島襄がラットランドで日本に学校を設立するために行った演説の逸話がありますね。新島先生のスピーチに感動したみすほらしい農夫が、帰りの旅費に充当したみすほらしいの2ドルを寄付する。というお話です。学生時代にこれを読み、私はとても感動しました。教育というのはそ



石田 芳弘さん

愛知県犬山市長
【1968年商学部卒業】

大学卒業後、家業の酒屋を継ぐが、1972年地元の衆議院議員の信頼を得て秘書になる。'83年には、愛知県議員に当選。国政をめざすが、一転して地元犬山市長選に立候補して当選。学校改革で県教育委員会に論争を挑むなど、全国的にも注目を集めている。

れほど国の将来を決するよう大きなテーマなのです。

校長に民間人を登用するとかしないかというのには実はアエ2万ルな問題で、最大の問題は公教育には競争原理が働かないという点です。固定客がついているレストランみたいなもので、どんな素晴らしい料理を出してもお客様さんが来てくれません。

杉岡 昨年、私もインターンシップで京田辺市役所という一行政でお世話になつたのですが、働く意欲という面で職員の間で随分温度差があるなあと感じました。

石田 それは職員の責任じゃないですね。職員はみんな意欲を持って入ってきます。ところが、決まった仕事をしていれば定年まで保証されるような環境では、意欲を持ち続けることはなかなか難しい。そこに光を当て

これからの地方行政のありかたを聞く
愛知県犬山市に石田市長を訪ねて



新しい風を送り込むのがわれわれリーダーの仕事なのです。学校の先生もそうです。教職に情熱と誇りを持ってやってくるんです。ところが、組織に入ってしまうと気持ち擦り切れていく。だから、モデルの法則にあるように違う道伝子を持った人を外から招聘し、ハイブリッドな組織にしないとけない。校長だけでなく、非常に優秀な先生を呼んでくればよい。先生もきつと刺激され、やる気に火がつくはず。凡庸な教師はただしゃべり、普通の教師は説明し、優れた教師は自分でやって見せ、卓越した教師は火をつけると言いますが、教育問題というのは、生徒の心に火をつける教師をつくることです。そのためには、まず教師の心に私たちが火をつけなければいけません。

杉岡 なるほど。確かにそれは大学教育でも同じことが言えるかもしれませんね。
石田 大学時代、私は随分火をつけられました。同志社大学で学んだ最大の意義はと言えば、新島先生の教えに触れたことで

す。明治時代は、日本の歴史の中でも特筆すべき時代で、若々しく秋空のように澄み渡っていた。そういう時代を背景に、新島先生は米國に渡り、ヒューマニズムの一番いい部分を日本に持ち帰ろうとした。東京大学とか京都大学は、有名な大学ですが、同志社大学のように燦然と輝くアイデンティティはありません。そういう精神を私たちは忘れてはダメだと思います。

杉岡 しかし、授業に出て、大学の行事に参加しても、私たち学生はもうひとつ建学の精神に触れたという実感が無いのが本音です。それはどうしたらいいのでしょうか。

石田 そう思ったら新島先生の書簡集を読んでみるんです。国を捨て、家族を捨て、いわば死を賭して米國に学ぼうとしたあの時代は、西郷隆盛や伊藤博文など偉人をたくさん輩出しました。彼らは政治によって日本を変えようとした。一方、新島先生は教育を通して日本を変えようとした。スモールという点では政治を志した人たちよりもずっと大きいと思いませんか。

杉岡 そうですね、そして、石田市長自身も市長という立場から公教育を変えようと考えておられる。学生時代から政治の道めざされたのですか。

石田 大学では陸上競技部に入っていました。ところが、体を壊してしまいました。多分信じてもらえないでしょうが、当時は人前で話すのがとても苦手な青年でした。そこで自分の弱点を直そうと雄弁会に入ったんです。現在無くなってしまうましたが、同志社大学の雄弁会は全国的に有名でした。在学中にも、ディベートで全国優勝しているくら

いです。その雄弁会の友人の父親が市長選に立候補するというので応援に行った。そのときの体験から、政治というのも面白いものだと思います。そして4年次には、京都新聞社主催の「青年の主張」に出場して優勝しました。卒業後は、4年ほど家業を継いでいたんですが、政治の世界への興味が捨てきれず、27歳で衆議院議員の秘書になつたわけです。杉岡 「青年の主張」では何をテーマに話されたんでしょう。

石田 確か、青年は政治にもっと関心を持つべきだ。政治意識が低ければ、その程度の政府しか生まれません。そんなことをしゃべったと記憶しています。今でもその思いはあって、国家が国民のために何をしてくれるかではなく、国民一人ひとりが、国家のために何ができるかを考えて欲しい、という。J・F・ケネディの有名な演説がありますが、どうも戦後、日本人は政治は何かをしてくれるもの、という依頼心ばかりが強くなっている。政治や行政に頼り、自らが他人や地域社会のために行動を起こすことがないように思います。



これからの地方行政のありかたを聞く
愛知県犬山市に石田市長を訪ねて

杉岡 私も、そういう意味では地域社会のために京田辺市でエコマネーを普及させる活動をしています。しかし、ポランティアというところも無償制というところはかなりが強調されるんですね。継続性を考えると、経済の問題も大切なんです。

石田 NPOとかエコマネーというのは、制度なんです。あじやるように制度については経済が重要です。しかし私が言いたいのは、それ以前の問題ですね。無心とか、利他、奉仕の精神、もつと言えば、思想とか、哲学の問題なんです。昔の日本人はそれを、神道や仏教、キリスト教を通して学んできました。それが宗教心の希薄化とともに失われているように感じるので、同志社大学の立地を考えてみてください。北に相国寺、南に御所と、その気になればキリスト教はもちろん、仏教や神道に触れられるシンボリックな環境にあるのです。

杉岡 ところで、現在の日本はさまざまな課題を抱えています。そこに小泉首相や石田市長のような方が登場し、良い意味で、創造的な破壊をしようとしている。そして地方行政も政府主導から地方分権に移ろうとしています。この変化を市長はどう捉えていますか。

石田 国家という存在はもちろん認めます。しかし、政治のリアリティは地方にあります。そこからの情報をしっかり上げていかないと国家そのものがあかしくなります。今話題に上った地方分権ですが、これはかつてなかった新しい思想ですよ。明治以来の政府と地方の関係は主と従の関係以外の何ものでもなかった。ところが地方分権は、中央と地方は

対等だとしっかり謳っています。

杉岡 中央からの上意下達型社会ではなく、地方が独自の文化を発信する時代がくれば、日本はもつと面白くなりますね。

石田 そのために、同志社大学の卒業生に政治家を目指して欲しい。全国に市は600くらいあるんですが、同志社大学の卒業生の市長は私を含めて3人しかいない。皆さんの目には、政治とは権力闘争の場と映っているかもしれませんが、実際は社会正義を実現する場なんです。新島先生が言っている、良心を手腕に運用するものが活躍できる場なんです。だから、新島精神を学んだ皆さんが政治の世界に入れば日本は確実に変わると思っています。政治を志す方がいっしょれば、私はいつでも力になります。

杉岡 本日は貴重な時間をお割きいただき、ありがとうございました。



ユニークなアイデアを次々と打ち出す
石田市長のバックボーンには新島精神があった。

石田市長は、市長に就任するなり、犬山市の会計に複式簿記を採用し、さらに企業のようにバランスシート会計を導入し、また今、行政評価制度の導入に取り組んでいる。「大学時代に学んだ会計学が、市長になってやっど役に立った」と笑って話すが、大学時代に学んだものはもちろんそれだけではない。はっきり言い切るように、新島精神こそが石田市長の政治思想の根幹をなしているのです。

それは先生から学んだものでも、多分本から学んだものでもなく、自らが求めてつかんだものだと思います。「同志社大学には、東京大学や京都大学にはないアイデンティティがある。ナンバーワンなのではなく、オンリーワンなのです」と石田市長が言うように、私たちは創立者が蒔いた種子を心の中で育てていくことができる。もつと同志社大学生であることを大切にしなければ、と感じた今回の訪問でした。

INTERVIEWER

杉岡 秀紀さん

【経済学部4年次生】

ゼミでエコマネーを研究したことをきっかけに、京田辺キャンパスがある京田辺市でも、その導入に向けたプロジェクトを推進する。また、Chicago-Poodleというバンドのメンバーとして、アフガニスタン難民救済のためのCD『私流イマジン』の制作にも関わる。将来は大学院でNPOに関する研究を深める予定。



何しに来たの？

新学期が始まると必ず質問することがある。「なんでこの大学を選んだの?」「大学の先生からこのような質問をされるとは少しも予想していなかったようである。もう一度聞く、言うてもいいのかなという感じで答える。「他に行きたい大学があったのですが・・・」「偏差値が・・・」「学内なんて」がほとんどの答えである。入学に至る経過はともかく、「・・・が勉強したくて」「・・・が好きで」というその次の言葉を聞けるのは10人に2、3人くらいである。目標がない人が沢山いるものだなと思わず苦笑してしまう。

私は体育の教員である。このような話ができるのは体育実技の時。日常から解放されるためか、学生の本音を結構聞くことができる。最近の京田辺校地にいる学生から感じ取れるのは、周りの友達や先輩からの情報などに振り回され、履修要項や講義概要などはほとんど見ていない。つまり、俗に言う案勝講義(単位が比較的簡単に取れる授業)ほどの講義かに焦点が集まっているようである。かと思つと、大学で何を学ぶかについて明確な目的をもつ学生もいる。先日もある学生たちが、「この大学はレジャーランド化していて、遊びに来ているとしか感じられない一部の学生と同じ講義を受けるのは非常に迷惑である」と訴えてきた。この温度差は一体何なのだろうか?

春学期末に学生に伝えているメッセージがある。「大学の勉強は当たり前、勉強以外で何か一生懸命になるものを見つけて懸命に取り組み、その中で他の人には負けない武器を身につける」と。そして、残された学生生活をどのように過ごすのかよく考えて取り組むよう言うのである。スポーツ心理学では選手のメンタル面を強化する第一段階として、自己分析(チーム分析)と目標設定を行う。自分自身を心技体の三つの側面から客観的に分析し、理想(目標)とする自分像に近づくために長期目標、短期目標、今日の目標のようにトップダウンで目標を設定していくものである。もちろんこれらの目標は現実的なものでなくては意味がなく(成功/失敗率が半々、もしくは自己ベストの110%)、結果よりもその過程(パフォーマンス)を重視するものである。また、練習日誌などの記録から目標を修正していくことも重要になる。これらの目標を日々達成していくことで自信がわき、その結果として選手として成長していくというものである。目標の設定はスポーツに限らず、普段の生活や仕事でも当然重要である。目標のない行き当たりばつたりの生活またはポトムアップの発想で目標が見えてくるという計画方法も否定できないが、少なくとも自分の進むべき目標がなければ自分の人生設計は成り立た

なくなり、不安だけが残されてしまうであろう。今の学生は苦勞して何かを身につけることを嫌うようであるが、大学は自らが動かなければ何も学べないところである。大学の勉強はもちろんのこと、講義では学べないことを学ぶ機会はそのらじゅうに転がっている。学生のうちに懸命に取り組んだ経験は、認知的方略の転移とでも言おうか、将来の生き方に必ず役立つだろう。同志社大学は自由な雰囲気があるとされているが、そのような絶好の機会を逃さない手はないと思う。

石倉 忠夫

Ishikura Tadao

経済学部助教授



1968年松江市生まれ。中京大学大学院体育学研究科博士後期課程修了(体育学博士) 中京大学大学院体育学研究科実験実習助手を経て、同志社大学経済学部専任講師。現在、助教授。専門はスポーツ心理学。主な研究テーマは「運動技能学習におけるモンテリング効果」「体育・スポーツが社会的スキルに及ぼす影響」。趣味はアイスホッケー。